

■川島武宣 民法学者・法社会学者。法制度分析法構築し、戦後の日本の法社会学をリード、多くの影響を及ぼした。

かわしまたけよし

伊藤博文暗殺1909＝ 岐阜市生まれ。

明治天皇没・1912＝ 3歳：

本格政党内閣1918＝ 9歳：

原敬首相暗殺1921＝12歳：

金融恐慌・・・1927＝18歳：

満州事変・・・1931＝22歳：

五一五事件・1932＝23歳：_東京帝国大学法学部卒業。我妻栄のもとで助手となり、民法を専攻、

帝人疑獄事件1934＝25歳：助教授、

二二六事件・1936＝27歳：

日中戦争始・1937＝28歳：

民法の請求権競合に関する研究から出発し、さらに穂積重遠・末弘厳太郎・イエリング・エールリッヒらの影響により法社会学の研究に着手した。

日米開戦・・・1941＝32歳：

まず農・山・漁村の法社会学的調査の先駆者として村落構造・家族関係・入会権など日本社会の特質を解明するとともに、第2次世界大戦中に多くの執筆を成し、近代的所有権の基礎をなす社会関係を解明し、近代市民社会との対比において日本社会を分析し批判するための基礎理論を築いた。

敗戦・・・1945＝36歳：*敗戦後、教授となるとともに、戦時中の研究成果を発表。

新憲法施行・1947＝38歳：_日本法社会学会を設立、

極東裁判決・1948＝39歳：*とくに「日本社会の家族的構成」は、戦後の民法改正に大きな影響を与え、

三大事件・1949＝40歳：戦時の「所有権法の理論」。「民法解釈学の諸問題」で法解釈学の理論構成に新たな段階を画する。

独立回復・・・1951＝42歳：

自衛隊発足・1954＝45歳：

55年体制始・1955＝46歳：_「科学としての法律学」は法社会学の裏付けを持つ法解釈学の樹立を説き、

インスタンマン・1958＝49歳：「イデオロギーとしての家族制度」、また*鶴飼信成・福島正夫・辻清明らと共同編集の{(講座)日本近代法発達史}の刊行開始で、その後の日本近代法史研究に決定的影響を与える。

美智子妃・・・1959＝50歳：「近代社会と法」、

安保闘争・・・1960＝51歳：

タイタイ病始・1961＝52歳：_この年設立の国際法社会学会と連携、学会の国際化に寄与。

TV宇宙中継始1963＝54歳：

大学紛争始・1965＝56歳：_「農家相続と農地」は、全国的法社会学的調査の指導例として名高い。

美濃部都知事1967＝58歳：_{(講座)日本近代法発達史}全11巻完結、

大阪万博・・・1970＝61歳：_停年退職、その後、弁護士となる。

日中国交回復1972＝63歳：*翌年にかけて、法社会学の体系化のために{法社会学講座}全10巻を編集し、自らも“法の社会制御モデル”の理論を展開する。

石油ショック1973＝64歳：

日本私法学会・日本法社会学会の理事長、日本学士院会員を歴任。

・・・1981＝72歳：「川島武宜著作集」刊行開始、

中曽根内閣・1982＝73歳：

バブル始・・・1986＝78歳：全11巻完結。

ドイツ統一・・・1990＝81歳：

ソ連崩壊・・・1991＝82歳：_文化功労者となり、

バブル崩壊・1992＝83歳：東京の関東中央病院で、_没した。